

愛知医科大学 学報



ライトアップされた新病院

＝ 第135号 ＝

2014. 7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

平成27年度学生募集概要……………	2
学生募集説明会・オープンキャンパスを実施…	5
役員・評議員の異動……………	7
平成25年度大学評価(認証評価)で適合認定…	8
平成25年度愛知医科大学決算……………	10
平成25年度看護学部卒業記念品……………	13
南イリノイ大学医学部短期留学体験記……………	14
平成26年度科学研究費助成事業交付決定……………	27
教育・研究最前線……………	33

平成27年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日	
推薦入学（公募制）	約25名	10/31～11/7 [消印有効]	11/15	本 学	11/20	
一般入学	約65名 (学士編入学若干名含む。)	12/8～1/7 [消印有効]	第1次試験 1/20	本学, 東京 大阪, 福岡	1/26	
			第2次試験 1/29・30 (いずれか希望する日)	本 学	2/5	
大学入試センター試験利用入学	約15名	12/8～1/16 [消印有効]	第1次試験 1/17・18 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	2/5	
			第2次試験 2/13	本 学	2/19	
愛知県地域特別枠入学	5名	2/12～2/27 [消印有効]	第1次試験 1/17・18 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	3/5	
			第2次試験 3/10	本 学	3/12	
◆入試科目・配点・時間						
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間	
推薦入学（公募制）	小論文検査			5段階評価	60分	
	基礎学力検査 (数学)	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B』		100点	70分	
	基礎学力検査 (外国語)	『英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング』		100点	60分	
	面接（個人面接）※1			5段階評価	—	
一般入学	第1次試験	理 科	『物理基礎・物理』, 『化学基礎・化学』, 『生物基礎・生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 (各100点)	120分	
		数 学	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B』※2		150点	100分
		外国語	『英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング』		150点	100分
	第2次試験	小論文検査			5段階評価	60分
		面接（個人面接）※1			5段階評価	—
		大学入試センター試験利用入学				
大学入試 センター試験 利用入学	第1次試験 (大学入試 センター試験)	国 語	『国語』(近代以降の文章のみ利用)	100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』	200点		
		理 科	『物理』, 『化学』, 『生物』の3科目のうち 2科目を選択	200点 (各100点)		
		外国語	『英語(筆記・リスニング)』	200点※3		
第2次試験	面接（個人面接）※1			5段階評価	—	
愛知県地域特別枠入学	試験内容は大学入試センター試験利用入学と同様					

※1 本学が必要と認めた者に対して、面接終了後に健康診断を行う。

※2 数学Bの出題範囲は「数列」及び「ベクトル」とする。

※3 250点を200点に変換。

旧教育課程履修者に対する経過措置

一般入学（理科・数学）

- ・旧教育課程履修者の経過措置として、新教育課程と旧教育課程の共通範囲から出題する。
- ・旧教育課程における物理Ⅱの「物質と原子」のうち「原子、電子と物質の性質」及び「原子と原子核」は出題範囲から除く。

大学入試センター試験利用入学

- ・旧教育課程履修者への経過措置として、数学においては「数学Ⅰ・数学A」に替えて「旧数学Ⅰ・旧数学A」, 「数学Ⅱ・数学B」に替えて「旧数学Ⅱ・旧数学B」を選択可とする。また、理科においては「物理」, 「化学」, 「生物」に替えて「物理Ⅰ」, 「化学Ⅰ」, 「生物Ⅰ」の3科目のうち2科目を選択可とする。

平成27年度看護学部看護学科学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
推薦入学	指定校制	約15名	10/27～10/31 [消印有効]	11/8	本 学	11/18
	一般公募制	約15名				
社会人等特別選抜		5名				
一般入学		50名	12/17～1/14 [消印有効]	1/25		2/6
大学入試 センター試験 利用入学	前 期 A	8名	12/17～1/16 [消印有効]	1/17・18 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験受験会場	2/6
	前 期 B	5名				
	後 期	2名	2/12～2/25 [消印有効]			3/6
◆入試科目・配点・時間						
区 分		出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間
推薦入学	指定校制	面接（個人面接）		—	—	
	一般公募制	基礎学力検査 (外国語)	『英語Ⅰ・英語Ⅱ』	100点	45分	
		基礎学力検査 (国語)	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文』	100点	45分	
		基礎学力検査 (数学)	『数学Ⅰ・数学A』※1	100点	45分	
		面接（個人面接）		—	—	
社会人等特別選抜		小論文		—	60分	
		面接（個人面接）		—	—	
一般入学		外国語	『英語Ⅰ・英語Ⅱ』	100点	60分	
		理 科	『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』の3科目から1科目を選択	100点	60分	
		国語・数学	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文』, 『数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ』の2科目から1科目※1	100点	60分	
大学入試 センター試験 利用入学	前 期 A	国語・数学	『国語総合（近代以降の文章）』, 『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』, 『旧数学Ⅰ・旧数学A』, 『旧数学Ⅱ・ 旧数学B』から1科目※2	100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり	
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』, 『理科総合A』, 『理 科総合B』, 『物理Ⅰ』, 『化学Ⅰ』, 『生物Ⅰ』, 『地学Ⅰ』 ①から2科目または②から1科目	100点		
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』※3	100点		
	前 期 B	国 語	『国語（近代以降の文章）』	100点		
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』, 『数学Ⅱ・数学 B』, 『旧数学Ⅰ・旧数学A』, 『旧数学Ⅱ・旧数学B』 から1科目※2	100点		
		地理歴史・ 公民	『世界史B』, 『日本史B』, 『地理B』, 『現代社会』, 『倫 理』, 『政治・経済』, 『倫理, 政治・経済』から1科目	100点		
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』, 『理科総合A』, 『理 科総合B』, 『物理Ⅰ』, 『化学Ⅰ』, 『生物Ⅰ』, 『地学Ⅰ』 ①から2科目または②から1科目	100点		
	外国語	『英語（筆記・リスニング）』※3	100点			
	後 期	国語・数学	『国語（近代以降の文章）』, 『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・ 数学B』, 『旧数学Ⅰ・旧数学A』, 『旧数学Ⅱ・旧数学B』 から1科目※2	100点		
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』※3	100点		

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 「旧数学Ⅰ・旧数学A」, 「旧数学Ⅱ・旧数学B」, 「理科総合A」, 「理科総合B」, 「物理Ⅰ」, 「化学Ⅰ」, 「生物Ⅰ」, 「地学Ⅰ」は旧教育課程履修者のみが受験可能な経過措置科目。

※3 250点を100点に換算。

平成27年度 大学院医学研究科(博士課程)学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

出願期間：平成27年1月5日（月）から
平成27年1月14日（水）まで
（必着）

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：平成26年8月18日（月）から
平成26年9月1日（月）まで
（必着）

試験日：平成26年10月3日（金）

試験場：大学本館3階303講義室

合格発表：平成26年10月24日（金）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施

試験日：平成27年2月6日（金）

試験場：大学本館2階202講義室

合格発表：平成27年2月20日（金）

3 試験項目・時間

試験項目	時間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は，英語一 か国語のみによる試験又は英語及び日本 語の二か国語による試験のいずれかを選 択する。	10：00 ～12：00
面接試験 （志望する専攻分野に関連する専門試験を 含む。）	13：00～

平成27年度 大学院看護学研究科(修士課程)学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次の
とおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域
広域看護学分野	看護管理学領域
	母子看護学領域（母性・小児）
	災害看護学領域
	慢性看護学領域
	精神看護学領域
	老年看護学領域
地域看護学領域	
高度実践看護学分野	クリティカルケア看護学領域（※）

※高度実践看護師（看護師特定能力認証）コース（クリティカルケア〔周
術期〕）のみ募集

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：平成26年8月8日（金）から
平成26年8月22日（金）まで
（消印有効）

試験日：平成26年9月4日（木）

試験場：看護学部棟内講義室

合格発表：平成26年9月10日（水）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施

出願期間：平成27年1月13日（火）から
平成27年1月26日（月）まで
（消印有効）

試験日：平成27年2月5日（木）

試験場：看護学部棟内講義室

合格発表：平成27年2月12日（木）

4 試験科目・時間

《一般選抜》

試験時間	試験科目等
9：00～10：00	小論文
10：30～12：00	外国語（英語）
13：00～14：00	専門科目（専攻領域）
14：10～	面接

《社会人特別選抜》

試験時間	試験科目等
9：00～10：00	小論文
10：30～12：00	外国語（英語）
13：00～	面接

《高度実践看護師コース》

試験時間	試験科目等
9：00～10：00	小論文
10：30～11：30	外国語（英語）
13：00～14：30	専門科目（関連領域の病態生理学）
14：40～	面接

注）外国語（英語）の試験は，辞書（電子辞書は除く。）の持ち込みを認
める。

学生募集説明会・オープンキャンパスを実施



会場受付

本学では、毎年2回のオープンキャンパスを実施しており、第1回目のオープンキャンパスを平成26年7月19日（土）に実施しました。

当日は、「入試内容の説明」、「学食体験」及び「教職員による個別相談及び在学生との相談」を行い、医学部としては「キャンパスツアー」、「入学試験合格体験談」、「留学体験談」及び「研究・学会発表体験談」等を行い、看護学部としては「在学生からのメッセージ」及び「実習体験」等を行いました。

北は宮城県、南は沖縄県からの参加があり、医学部152組235名、看護学部154組248名の参加と計483名もの多数の方々に参加して頂きました。

在学生が案内する「キャンパスツアー」では、フライトドクターによるドクターヘリを見ながらの説明が一番人気で、会場が賑わいました。

また、「教職員による個別相談」では、入学試験の内容、奨学制度などに関する相談があり、「在学生との相談コーナー」では、在学生から入学試験に臨む心構えや入学後の状況等を聞く良い機会として参加された方も数多く見られました。



キャンパスツアー
(ドクターヘリ見学)



聴診器を使った
実習体験風景



学生との相談コーナー



私の入学試験
合格体験談

国家試験日程のお知らせ

◆第109回医師国家試験

- ・試験日 平成27年2月7日（土）、8日（日）及び9日（月）
- ・合格発表日 平成27年3月18日（水）

◆第104回看護師国家試験

- ・試験日 平成27年2月22日（日）
- ・合格発表日 平成27年3月25日（水）

◆第101回保健師国家試験

- ・試験日 平成27年2月20日（金）
- ・合格発表日 平成27年3月25日（水）

訃 報

古田耕一 人事・厚生室主査 御逝去



平成26年7月19日に法人本部人事・厚生室の古田耕一主査が急性大動脈解離により亡くなりました。享年54歳でした。

前日も普段どおり勤務しており、職場の同僚の急逝にただ驚くばかりでした。

古田主査は、昭和55年3月に愛知県立緑ヶ丘商業高校を卒業し、同年4月に本学に就職されました。当初は、総務部人事課に配属となり、職員係、任用係を務め、平成3年8月には病院事務部病院管理課に異動となり、病院庶務係として勤務するかたわら、看護婦充

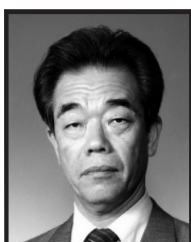
足対策業務にも奔走いたしました。平成8年7月から、大学医学部の教務課に異動となり、学生の成績のデータベース管理や臨床実習に関すること、更には6学年次生の総合（卒業）試験に関する業務を中心に担当していました。

平成23年7月には、古巣である人事・厚生室に異動し、任用係として給与認定や人件費の定員管理、予算の取りまとめなど、同室における根幹となる業務を地道に、かつ精力的に執務していました。温厚篤実な人柄は、誰もが認めるところであり、彼の抜けた穴は大きく、人事・厚生室の痛手は計り知れません。

謹んでご冥福を心よりお祈り申し上げます。

訃 報

竹谷和視 名誉教授 御逝去



竹谷和視名誉教授（薬理学講座）が平成26年5月11日に御逝去されました。享年84歳でした。

竹谷先生は昭和31年3月に名古屋市立大学医学部を卒業され、名古屋大学医学部講師、愛知学院大学歯学部助教授を経て、昭和48年7月に愛知医科大学医学部薬理学講座教授として着任されました。評議員、学生部長、医学情報センター長、分子医科学研究所長などを歴任され、平成9年3月31日までご勤務されました。

教育においては、本学学生のための独自の教科書として「系統薬理学」、実習書として「薬理学実習」を

編纂され、またCAI（Computer Associated Instruction）をいち早く取り入れられ、薬理学CAI問題集を作成されました。

研究においては、心筋の活動又は静止時におけるナトリウムイオン及びカルシウムイオンの細胞膜の通過機構に重点をおき、単離心筋細胞パッチクランプなどの手段を用いて解析を進められました。

「困った時には竹谷先生のところへ行け」と言われるように、学生の補導、特に多重留年問題に積極的に取り組み、学生部長時代に「医学生生活の落とし穴」を上梓されました。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

訃 報

渡邊 務 名誉教授 御逝去



渡邊務名誉教授（旧内科学第三講座）が平成26年5月23日に御逝去されました。享年88歳でした。

渡邊先生は昭和50年1月1日に（旧）内科学第三講座を開設され、循環器専攻の少数名のスタッフにて教室運営をスタートされました。その後、呼吸器グループ、消化器グループを迎えられ内科三大分野を専攻科目とする（旧）内科学第三講座を統括されました。

地域社会に奉仕する良き臨床医の育成による地域医療貢献、またそこに生じる問題点を研究テーマとして解決し、臨床に還元するという基本方針は、まさに現在の循環器内科（現：天野哲也教授）に受け継がれています。

本学定年退職後は、我々循環器内科を大所高所より暖かいまなざしで見守ってられました。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

役員・評議員の異動

平成26年5月26日（月）に理事会及び評議員会が開催され、次のとおり理事・評議員の選任等を行いました。

【理事】

- 辞任 浅井富成（平成26年5月31日付）
選任 羽生田正行，細川秀一（任期：平成26年6月1日～平成28年1月27日）

【監事】

- 任期満了 坂浦正輝（平成26年5月29日付）
選任 林 清博（任期：平成26年5月30日～平成29年5月29日）

【評議員】

- 辞任 浅井富成，鈴木賢一郎（平成26年5月31日付）
選任 大輪芳裕，土井清孝，八島妙子（任期：平成26年6月1日～平成28年1月27日）

医学部父兄後援会・父兄互助会平成26年度定期総会開催

新会長に細川秀一氏を選出



平成26年5月25日（日）午前10時から，大学本館301講義室において平成26年度愛知医科大学医学部父兄後援会・父兄互助会定期総会が開催されました。

平成25年度父兄後援会及び父兄互助会の事業報告及び決算報告，父兄互助会規約の改正の後，平成26年度役員改選に移り，会長の細川秀一氏【写真】を始め総勢19名の新役員が選出されました。

細川新会長のあいさつの後，平成26年度事業計画及び予算案が原案どおり承認されました。

総会終了後は，三宅養三理事長，岡田尚志郎医学部長，細川好孝教務部長，道勇学学生部長，島田孝一法人代表部長からそれぞれあいさつがありました。

なお，昼食を挟んで，午後1時20分から4～6学年次生のご父兄を対象に国試懇談会が開催されました。

看護学部父母会平成26年度定期総会開催

会長に石川清道氏を再任



平成26年5月10日（土）午前10時から，看護学部棟N301講義室において看護学部父母会の平成26年度定期総会が開催されました。

石川清道会長のあいさつの後，議事に入り，平成25年度の事業報告及び決算報告が原案どおり承認されました。続いて役員改選が行われ，会長には引き続き石川清道氏（4学年次生父母）が，また，新役員として他に22名の方々が選出されました。その後は新役員によって議事が進行され，平成26年度の事業計画案及び予算案

が原案どおり承認されました。

議事終了後，衣斐達看護学部長及び八島妙子教務学生部長から来賓あいさつがあり，盛会のうちに定期総会は無事終了しました。

また，定期総会に引き続いて，父母と大学教員との学年別懇談会が開催され，大学側からは各学年の主任，副主任が出席して，活発な意見交換等が行われるなど，大変有意義な会となりました。

なお，この懇談会は，父母会と大学の双方が定期的な情報交換・意見交換等を行うことにより，学生生活全般の向上を図ることを目的として毎年行われています。

平成25年度大学評価（認証評価）で適合認定

平成25年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）を申請し、本学は同協会の大学基準に適合していると認定されました。

認定期間は、平成26（2014）年4月1日から平成33（2021）年3月31日までの7年間です。

本学としては、今回の大学評価結果を真摯に受け止め、更なる改善・改革に向けた取り組みを検討するとともに、教育・研究の質向上に努めてまいります。



主な役職者の改選

○ 大 学

【副 学 長】



若槻 明彦

(産婦人科学講座・教授)

今年度5月より副学長を拝命いたしました。愛知医科大学の教員評価は3年が経過しますので、今年度末には大学全体のまとめを報告する予定です。また、男女共同参画事業では、病児保育、24時間保育を実現できるように努力する所存です。

(新任、任期：H26. 5. 1～H28. 3. 31)

平成26年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！聴いてみよう！医科大学の公開講座
～新病院で提供される最先端医療～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を毎年度開催しています。平成26年度の公開講座は、テーマを「新病院で提供される最先端医療」と題し、9月6日（土）から毎週土曜日の計4回にわたって開催することとなりました。

受講方法及び内容等は次のとおりです。

【受講方法】

- ・受講対象者 一般市民
- ・募集人数 400人
- ・受講料 無料
- ・会場 本学たちばなホール
- ・申込先 公開講座1係

【内容等】

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月6日（土）	10：00～12：00	子どものがんの新しい治療 小児科 准教授 堀 壽成
		こどものひきつけ：どうしたらいいの？ 小児科 教授 奥村 彰久
9月13日（土）	10：00～12：00	肺の手術～ナビゲーションの進歩とその応用～ 呼吸器外科 助教 山地 雅之
		“楽ちん”な肺癌手術を目ざして～胸腔鏡からロボットへ～ 呼吸器外科 教授 沼波 宏樹
9月20日（土）	10：00～12：00	新しい愛知医科大学病院～あなたを元気にする、私も元気になる～ 看護部 部長 小池三奈美 基礎看護学Ⅰ 教授 白鳥さつき
9月27日（土）	10：00～12：00	足を救う：カテーテル治療とバイパス術 血管外科 教授 杉本 郁夫
		足の静脈のこぶ：局所麻酔で行う静脈瘤レーザー手術 血管外科 助教 折本 有貴
		最新ハイブリッド手術室でおこなう低侵襲血管病手術 血管外科 教授 石橋 宏之

郵便ポストの設置

職員及び学生の利便性向上のため、大学本館1階南側入口付近に新しく郵便ポストが設置され、平成26年8月1日（金）から運用されておりますので、ぜひご利用ください。

郵便物回収時間

平日：12：00、16：30
土・日・祝日：16：00



平成25年度愛知医科大学決算

平成26年5月26日に開催された理事会及び評議員会において、平成25年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

消費収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位:百万円)

消費収入の部			消費支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金	5,072	79	人件費	16,614	150
手数料	219	26	教育研究経費	18,789	1,128
寄付金	867	176	(うち医療経費)	(16,122)	(951)
補助金	3,225	1,253	管理経費	614	8
(国庫補助金)	(2,876)	(1,391)	借入金等利息	232	103
(地方公共団体補助金)	(333)	(△153)	資産処分差額	1,021	16
(学術研究振興資金)	(1)	(1)	徴収不能引当金繰入額等	15	△65
資産運用収入	289	△172			
資産売却差額	311	△297			
事業収入	271	46			
医療収入	27,463	△88			
雑収入	413	△116			
帰属収入合計(A)	38,131	908	消費支出の部合計(C)	37,285	1,339
基本金組入額合計	△3,009	△2,982	帰属収支差額(A-C)	846	△431
消費収入の部合計(B)	35,121	△2,074	消費収支差額(B-C)	△2,164	△3,414

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

資金収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位:百万円)

資金収入の部			資金支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金収入	5,072	79	人件費支出	16,480	105
手数料収入	219	26	教育研究経費支出	16,375	980
寄付金収入	821	184	(うち医療経費支出)	(14,659)	(930)
補助金収入	3,225	1,253	管理経費支出	493	△51
(国庫補助金収入)	(2,876)	(1,391)	借入金等利息支出	232	103
(地方公共団体補助金収入)	(349)	(△138)	借入金等返済支出	896	388
(学術研究振興資金収入)	(1)	(1)	施設関係支出	17,227	15,212
資産運用収入	289	△172	設備関係支出	4,615	3,299
資産売却収入	4,680	△1,539	資産運用支出	6,618	△804
事業収入	271	46	その他の支出	3,386	△162
医療収入	27,463	△88			
雑収入	413	△116			
借入金等収入	16,448	15,394			
前受金収入	1,043	△3			
その他の収入	6,001	△580			
資金収入調整勘定	△7,674	△1,189	資金支出調整勘定	△3,352	△51
前年度繰越支払資金	13,129	1,024	次年度繰越支払資金	8,430	△4,699
資金収入の部合計	71,400	14,320	資金支出の部合計	71,400	14,320

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

貸借対照表

平成26年3月31日現在

(単位:百万円)

資 産 の 部			負 債 の 部		
科 目	金 額	前年差	科 目	金 額	前年差
固定資産	67,069	20,362	固定負債	32,622	12,313
有形固定資産	49,948	17,993	長期借入金	24,269	12,454
土地	7,474	36	学校債	1,943	△174
建物	12,373	△987	退職給与引当金	6,056	135
構築物	1,014	△154	長期未払金	339	△70
教育研究用機器備品	6,230	3,058	長期前受金	15	△32
その他の機器備品	119	24	流動負債	8,802	3,782
図書	1,423	△995	短期借入金	3,844	3,231
車輛	18	1	学校債	324	41
建設仮勘定	21,297	17,008	未払金	3,246	476
			前受金・預り金	1,387	34
その他の固定資産	17,121	2,369	負債の部合計	41,424	16,095
ソフトウェア	361	316	基本金の部		
有価証券・保証金他	193	△3,614	科 目	金 額	前年差
学校債償還引当特定資産	2,267	△133	第1号基本金	66,763	2,936
新病院建設引当特定資産	1,500	0	第2号基本金	1,500	0
借入金返済引当特定資産	10,800	4,800	第3号基本金	0	0
医療機器等整備調整資金引当特定資産	2,000	1,000	第4号基本金	2,636	73
流動資産	15,606	△3,422	基本金の部合計	70,899	3,009
現金預金	8,430	△4,699	消費収支差額の部		
未収入金	6,558	1,178	科 目	金 額	前年差
有価証券・貯蔵品他	618	100	翌年度繰越消費支出超過額	29,650	2,164
資産の部合計	82,674	16,941	消費収支差額の部合計	△29,650	△2,164
			負債、基本金及び消費収支差額の部合計	82,674	16,941

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

1 概要

平成25年度は、11月に新病院（中央棟）が竣工し、翌平成26年5月9日に開院を迎えることから、更なる飛躍を期するために、新病院建設を含むキャンパス整備計画を押し進めました。特に財政基盤の強化・安定を図るべきとの視点に立って、事業財源を確保することを最重要課題とし、事業収入の75%を占める病院収入の確保に努める必要があることから、医療の質を向上させながら医療収支の改善を図るべく病院の収入増に繋がる事業の取組みを行いました。

その他数々の取組の結果、平成25年度の帰属収支差は8億円（新病院建設寄附金・補助金、資産売却差額・資産処分差額を考慮すると2億円）となり、幅は縮小したが昨年度に続く黒字を確保できました。

2 前年度との比較（主な増減）

(1) 消費収支計算書

収入…帰属収入総額は381億円で、前年度と比較して9億円（2.4%）の増加となりました。

主な要因は、より急性期の患者の診療、より高度な医療の実施に努めたこと、放射線検査の迅速化を図ったこと、土曜日手術の増加の推進など、質の高い医療を患者に提供するとともにロスの無い診療を進めることで効率的な医療に努めたことによるものです。

支出…消費支出額は、373億円で前年度と比較して13億円（3.7%）の増加となりました。

主な要因は、前年度に引き続き人件費について、給与構造改革を継続したこととで人件費率の改善（0.6ポイント）となりましたが、医療経費は入院電子カルテの開発や新病院建設関係費の増など対

医療収入比率が悪化（3.6ポイント）したことによるものです。

(2) 資金収支計算書

施設関係支出は、新病院建設計画等が168億円で、全体では172億円となりました。設備関係支出は、教育研究用設備等更新費が31億円で、全体では、46億円となりました。

(3) 貸借対照表

資産総額は、827億円で前年と比較して169億円の増加となりました。また正味資産（基本金+消費収支差額）は、前年度と比較して8億円増加の412億円となりました。

3 最後に

愛知医科大学は、「社会から評価され、選ばれる大学」を基本方針とし、社会情勢、医療環境の変化に迅速に対応し、教育・研究・診療にかかるすべての領域において、更なる飛躍のための新たな改革実現に取り組んでいきます。

また、新病院を軸に大学としての本来使命である先端医療や地域医療、教育、研究を飛躍的に発展させることを目指し、今後も職員一丸となり邁進していきます。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。

<http://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0105/index.html>

文部科学省 橋渡し研究加速ネットワークプログラム 平成26年度 橋渡し研究（シーズA）に2件採択

「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」は、有望な基礎研究の成果を臨床へとつなげるために、名古屋大学を中心に、本学を含む12の機関で結成した「中部先端医療開発円環コンソーシアム」が文部科学省から採択を受けている事業です。

このたび、平成26年度支援シーズAに本学から2件が採択され、計800万円（各400万円）の研究開発費が配分

されました。

このシーズAは「2年以内に関連特許出願を目指す基礎研究課題」とされていますので、基礎研究成果の臨床への早期応用が期待されます。

本学では、今後も同コンソーシアムとの連携を密にし、研究開発の推進を図っていきます。

研究課題名	脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた造血支持療法（シーズA19）
研究者	病院輸血部・中山享之講師
研究課題名	放線菌由来新規エンドトキシン阻害剤の探索（シーズA20）
研究者	医学部分子標的医薬探索寄附講座・梅澤一夫教授

科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）学内説明会開催

平成26年6月24日（火）・26日（木）・27日（金）の3日間に大学本館301講義室において、科学研究費助成事業執行方法等の学内説明会が開催され、計75名の出席者がありました。

この学内説明会は、科研費の研究代表者及び研究分担者を対象に、科研費制度に関する理解向上と不正防止等の徹底を図ることを目的に毎年開催しているものです。

今年の説明会は2部構成で行われ、第1部では、総務部研究支援課の古山昂勢主事から、科研費に係る今後のスケジュール、補助金制度と基金制度の相違点、学内執行ルール、科研費遂行の留意点、納品検収制度及び最近の研究費不正使用に関する事例についての説明がありました。

また、第2部では、同課の多々良英矢主査から、文部科学省が定める「研究機関における公的研究費の管理・



監査のガイドライン（実施基準）」の改正内容及び改正に伴う本学の取組状況等についての説明があり、科研費の適正な執行と管理に向けて意義のある説明会となりました。

木壁画「十二支で描く愉快的看護の世界」寄贈

平成25年度看護学部卒業生からの卒業記念品として、看護学部棟3階ホールに木壁画「十二支で描く愉快的看護の世界」が寄贈され、平成26年6月9日（月）の午後2時から除幕式が行われました。

当日は、佐藤啓二学長、衣斐達看護学部長、八島妙子教務学生部長などの本学役職者や看護学部の教員を始め、平成25年度卒業生が出席しました。

卒業生を代表して黒田妙さんから卒業記念品の贈呈があり、「後輩たちが医療に対する仁愛の心を持つこと。そして、互いに切磋琢磨し合い、信頼関係を築きながら自分の夢や希望を抱き、叶えるために進んでいってほしいとの思いが込められています。」とのあいさつがありました。

最後に佐藤学長から、「素晴らしい記念品をご寄贈頂きありがとうございます。今後も、本学にお立ち寄りの



際には是非見に来てください。」とお礼の言葉が述べられました。

いつまでも大切にさせていただきます。ありがとうございました。

医学部成績優秀者表彰

本学医学部では、平成25年度の成績が各学年上位の者で、出席状況及び勉学態度等が他の模範となる学生に対して適用された成績優秀者に対し、本人の学習意欲の高揚を更に図るため、顕彰制度を設け表彰しています。

平成26年5月21日（水）午後5時から大学本館7階701会議室において、医学部2～6学年次の学生各5名の合計25名に対して、佐藤啓二学長から表彰状及び記念品が授与され、一人ひとりに称揚と更なる期待の言葉をかけられました。



熱中症予防の講演会開催

平成26年6月9日（月）午後5時から大学本館たちばなホールにおいて、クラブ加入学生全員を対象に、地域救急医療学寄附講座の井上保介教授（特任）及び大塚製薬株式会社の松本江里子氏による熱中症予防の講演会が開催されました。

井上教授（特任）からは「熱中症の予防及び手当について」、松本氏からは「水分補給について」と題して、汗のメカニズムから熱中症の予防、熱中症になってしまった場合の対処の方法など多岐にわたった内容でご講演頂きました。

折しも、今年は早い時期から猛暑日が続いており、多数の熱中症患者の発生が報道されています。また、8月初旬から石川県金沢市で開催される第66回西日本医科学学生総合体育大会（西医体）に向けて、クラブの練習も夜間から日中に移行する時期となるため、参加した約400名の学生も真剣に耳を傾けている様子でした。



この講演会で得た知識を活用して練習や試合に臨み、安全かつ効率的な活動を行い、西医体の上位入賞を期待します。

南イリノイ大学医学部短期留学体験記

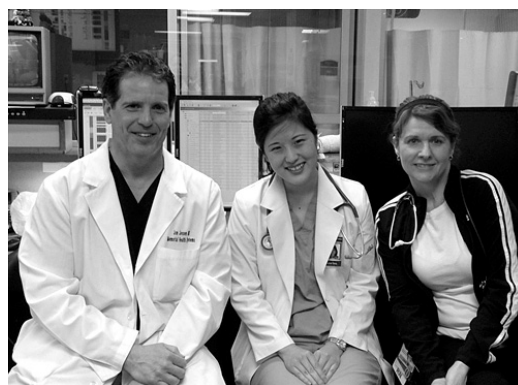
本学では、現在南イリノイ大学（SIU）医学部と学生交換を含む包括的な相互交流を行っており、この交換プログラムの一環として、臨床実習選択（elective）コースと2学年次カリキュラム受講（PBL）コースの二つのコースへ本学医学部学生を派遣しています。

平成25年度のプログラムとして、Electiveコースへ平成26年2月1日（土）から3月30日（日）まで1名の、また、PBLコースへ3月15日（土）から4月6日（日）まで6名の学生が留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

「SIU臨床実習選択コース」への派遣者

医学部6学年次生 小野真菜美

平成26年2月1日から3月30日までの約2か月間、SIUのElectiveコースに参加させて頂き、Family Medicineで1か月、Emergency Medicineで1か月、それぞれ実習してきました。SIUでの実習は、ただ上級医の先生がされることを見ているだけではなく、自分から積極的に参加して、診察や手技など色々なことを行うことができるため、aggressiveであればあるほど多くのものを得ることができます。現地では、実習に加えて多くの論文を読んだり、先生から課題を頂いたりすることもあり、忙しい日々が続きましたが、大きく成長を感じられるとても貴重な経験となりました。



小野さん（中央）

「SIU2学年次カリキュラム受講コース」への派遣者

医学部5学年次生 笠井麻以

3週間の研修で得たことの中で、一番留学して良かったと思えることは、勉強の仕方を学んだことです。PBLが学習のスタートとなり、学生自らが中心となり、自発的に疑問点を探して、仮説を立て、問題を解決する過程で、whyやhowを追及し、得た知識を他人と共有する。このPBL式思考過程が、将来患者さんを診断する際に必要になってくる能力に直結していくと思います。また、アメリカ人学生とともに学び、幅広い医学知識だけでなく、そのプロフェッショナルリズムに感心しました。今後の学生生活で、この学びを他の人にも還元し、更なる高みを目指していきたいです。

医学部5学年次生 服部 恵

今回、南イリノイ大学医学部PBLコースに参加させて頂き、とても多くのことを経験し、学ぶことができました。アメリカ人学生とのPBLでは、彼らの知識の多さと探究心にとっても驚かされました。彼らは、私が今まで気にも留めなかったようなことに対して疑問を持ち、積極的に調べていました。この探究心があるからこそ、多くの知識を得ることができるのだと思いました。私も、もっと多くの角度から疾患を見て、少しでも疑問に感じることがあれば積極的に調べていきたいと思いました。

医学部5学年次生 船越一輝

南イリノイ大学医学部へ留学して感じたのは、自分の知識がいかに薄いかということでした。私個人だけかもしれないませんが、病気を考える際に、まず病気、そこから症状、病態生理や生化学、解剖などの基礎医学に戻るといった捉え方をしていました。しかし、SIUの学生は基礎医学をまず先に出し、基礎医学的に起こる状態から、症候はどのようなものが考えられるか、そこからどのような病気が考えられるか、といったように逆の視点から医学を捉えているように感じました。また、一からやり直さなくてはと痛感しました。

PBLシステムに関しても大変よく、2症例を1週間のうちにこなしており、これを可能にしているのが、チューターの優秀さと熱意だと思いました。生徒の質問に対するレスポンスの早さ、これも相まって、すごいスピードで進んでいきます。疑問点は浮かび上がったものは、次回までに徹底的に調べるといった点も良かったです。

アメリカ人セッションでは生徒、先生ともに恵まれ、本当に素晴らしい時間を過ごせました。また、来年チャンスがあればElectiveコースに参加したいと思います。「楽しかった。」この一言で全てなのではないかと思いません。

医学部4学年次生 加藤 智大

今回の留学で南イリノイ大学医学部の学生と過ごした3週間は、今までの自分の大学生活とは全く異なるもので、とても新鮮でした。例えば、現地の大学生のカリキュラムは主に授業とPBLで構成されていますが、1日のうち多くの時間は自由な時間です。その間彼らは教科書を用い、PBLで出た課題や試験の範囲を学習していました。また、授業中では、講義の途中で学生が先生に対して質問をする姿を見ることができました。そのような環境で3週間勉強することで、自分の勉強法や生活を見直す良い機会になりました。今回の経験を生かして、今後の学生生活を過ごしていこうと考えています。

医学部4学年次生 高橋 寿彰

私は、南イリノイ大学医学部（SIU）での留学で本当に素晴らしい経験をさせて頂きました。SIUの学生は非常にモチベーションが高く、様々な面で大きく刺激を受けました。常に「why?」と考える習慣、疑問点や知らない事柄がディスカッションの中で出てくると詳細まで徹底的に調べ上げることに妥協をしない学習姿勢、基礎医学に関する深い理解、物事をロジカルに考える習慣などに私は感銘を受けました。特に「why?」と考える習慣こそ、これから医学を学び実践していく上で最も重要なことになると考えます。

この習慣をこれから常に意識し続けて勉学に励み、理想の医師像を目指したいと思います。

医学部4学年次生 森 智世

滞在中は、現地の学生との交流を通して様々な影響を受けました。学生は皆親切で、こちらが積極性を示せば快く受け入れてくれました。空いた時間には家に招いてくれたり、一緒に遊びに行ったりしました。一方で、勉強となると、些細なことや当たり前に見えることにさえ疑問を投げかける貪欲な姿勢、知らないことに対しても各々の基礎知識を発展させ、仮説を立てることのできる能力の高さに驚かされました。

留学期間は3週間でしたが、今後長きに渡っての勉強への取り組み方を変え、可能性を広げてくれた経験であったと感じています。



SIUでの集合写真

医学部早期体験実習体験記

平成26年度医学部新入学生による早期体験実習が、平成26年6月9日（月）から11日（水）の3日間にわたり、本院の各病棟において行われました。体験実習を終えた学生の感想文を紹介します。

患者さんの心に寄り添う医師に

実習病棟：10A病棟（消化器内科，呼吸器・アレルギー内科，内分泌・代謝内科，糖尿病内科）

1 学年次生 宮良 沙織

今まで病院とは、患者さんにとって「治療をうけるための場所」という意識でいたが、実習を通して「生活の場」であることを実感しました。入院患者さんは、朝目覚めてから夜眠るまでの時間のすべてを病室の中で過ごす。自分で動くことのできない患者さんは、ベッドの上で看護師さんに身体を拭いてもらったり、着替えを手伝ってもらったり、食事や排泄をしていました。すべての病室が個室ではないため、大部屋の患者さんは他の患者さんの声や物音が気になると言っており、「生活の場」としては我慢を強いられる場所なのだと痛感しました。しかし、院内は少しでも過ごしやすい環境になるように、壁やカーテン等に落ち着いた色彩が使われているだけでなく、プライバシーが守られるような配慮や患者さんの安全が配慮されており、少しでも快適な「生活の場」になるように工夫されていることがわかりました。

また、「患者さんから見た環境には私たち医療者も含まれるため、患者さんとの信頼関係を築くことが重要である。」と看護師さんが話してくださったことが、非常に印象に残っています。私も患者さんと信頼関係を築き、病気と闘う患者さんの心に寄り添うことのできる医師になりたいと改めて思いました。

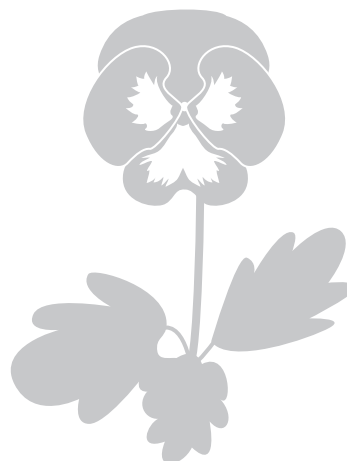
実習させて頂く中で、院内で働く多くの職種の方の存在を実感しました。多職種が医療チームとして協働して患者さんの治療に当たっていますが、その中心にいるのは1人の患者さんであることを忘れてはいけないと感じました。また、患者さんを中心として、医療者はお互いの役割を理解し、信頼し合い、自身の役割を全うすることが、良い医療を提供するというものではないかと感じた。

私が触れ合った患者さんの中には、言葉でのコミュニケーションが難しい方もいらっしゃった。言葉でのコミュニケーションができる患者さんでも、難聴のある方やうまく自分の言葉の出ない人もいました。そのような患者さんに対して、看護師さんたちは手を握りながら話しかけたり、ゆっくり大きな声で話しかけたり、患者さんの言おうとしていることを確認しながらコミュニケーションをとっていました。看護師さんの患者さんとの関わり方を見せて頂いて、コミュニケーションとは言葉だけで伝えるものではなく、タッチングや表情、言葉の選び

方や声のトーンも大きな要素だと感じました。また、業務で忙しい時であっても看護師さんたちは患者さんの前では忙しいそぶりを見せないようにし、ゆっくりと話を聞いていました。患者さんが、医療者に気を遣って聞きたいことがあっても聞くことができないということがないようにしないといけないと思いました。インフォームドコンセントの基本は、コミュニケーションにあるのではないかと感じたため、今後は自分自身のコミュニケーション能力を高める努力をしなければいけないと思いました。また、いかなる時、いかなる人であっても、相手を尊重する態度で接していかなければならないと改めて感じました。

実習で得た多くの学びを今後の学習に活かし、医学の知識と技術の習得はもちろん幅広い分野からも知識を求め、豊かな感性と冷静な判断力を身につけていきたい。そして、医師となった時には、多職種の人たちと連携・協働しながら偏りのない心で患者さんと向き合い、患者さんの回復に全力を尽くしていきたい。

最後になりましたが、お忙しい業務の中、丁寧に指導してくださった病棟師長さんを始めとする看護師の方々に感謝します。また、快く私たち実習生を受け入れてくださり、未来の医師として期待の言葉をかけてくださった患者さんたちに深く感謝します。



新病院が開院

平成26年5月9日（金）に新病院が開院し、外来診療を開始しました。

開院に向けては、新病院を想定した運用検討及び職員を対象としたリハーサルやトレーニングを実施し、開院初日は、1,758名の外来患者さんが来院されましたが、事前準備を整え、院内に案内係を適切に配置したことで、大きな混乱もなく外来診療を終了しました。

また、開院に伴って、平成26年5月から土曜日の外来を休診とするとともに、平日の診療開始時間を9時から8時30分へと繰り上げました。

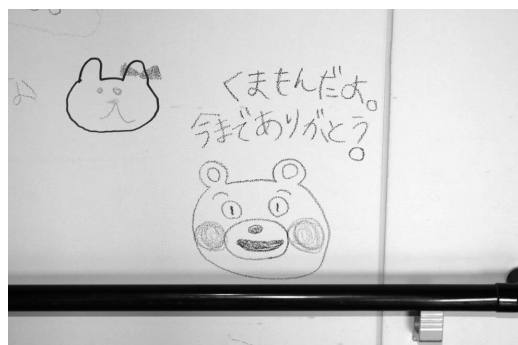
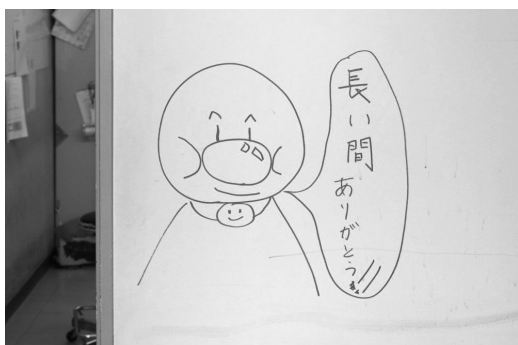
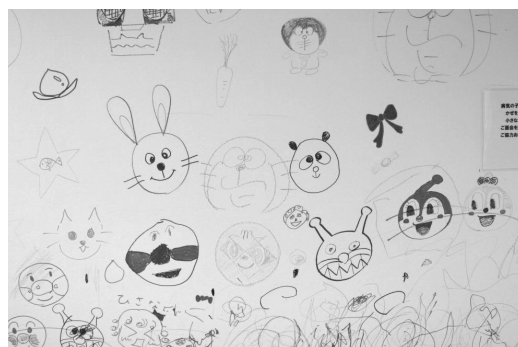
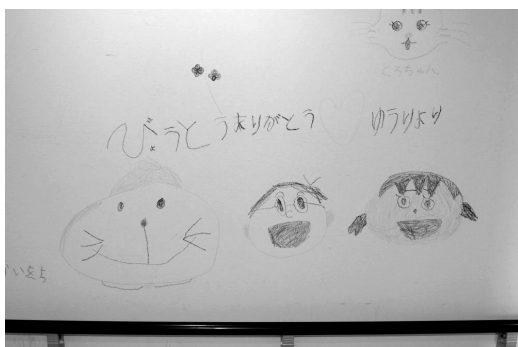
愛知医科大学病院は、新病院を契機に「高度専門医療」を提供する病院として、更なる発展と地域への貢献を目指します。



再診受付機でNAVITを受け取る患者さん

新病院への引っ越し～子どもたちからの寄せ書き～

平成26年5月9日（金）をもって、中央棟へ病院機能を移しましたが、旧病院の小児病棟廊下壁面に子どもたちから今までの感謝を込めて素敵な寄せ書きが送られましたのでご紹介します。



たくさんの素敵なメッセージを送って頂き、ありがとうございました。

腎移植外科の設置

日本では1万2,000人以上の腎移植希望者が手術を待っていますが、その実績は欧米諸国と比べ極端に少なく、希望する患者に移植医療を提供することは困難な現状です。このようなわが国の慢性腎不全医療を打破するために、愛知医科大学において腎不全患者に対する包括的な医療体制を確立することや、腎移植を多くの方に安全に確実にを行うことを目的とし、平成26年5月1日に腎移植外科が設置されました。

腎移植外科では、腎臓提供者に対するドナー腎摘術も

鏡視下手術で行っており、手術での侵襲も大変軽減しています。

また、愛知県を始め、中部地方、九州地方を含めた多くの透析施設と連携して、患者さんを受け入れ、内科・外科で一貫した医療を提供できるよう努めています。その他、腎移植に興味を持っている方や、自分は移植が可能なのだろうかと疑問を持たれている方の相談にも応じています。

プライマリケアセンター（PCC）の設置

平成26年5月9日の新病院開院とともに、プライマリケアセンター（PCC）が本稼働をいたしました。本センターの役割は、外来診療の効率化、救急医療の円滑化、医学教育の充実の三つを担うことです。

大学病院の外来診療に求められる役割は高度な専門医療を提供することですが、本院には紹介状や予約のない患者さんも多数来院されており、外来の待時間が長くなる原因の一つとなっています。各専門診療科の診療が効率よく行えるように、本センターでは紹介状や予約のない患者さんの総合的な診察を行い、適切に院内の専門診療科や地域の医療機関に紹介を行うことにより病院全体の外来診療の効率化を図っています。

また、診療時間外には救急外来としての役割を担います。救急外来では、専修医（レジデント）及び研修医を

中心とする救急担当医が、救急車以外で受診した全ての患者さんの初期対応に当たります。重症の患者さんは、高度救命救急センターに引き継ぎます。救急車で来院した患者さんは、高度救命救急センターが全て受け入れますが、その中でも軽症の患者さんについては本センターで診療を行います。高度救命救急センターと本センターは隣接しており、連携をとりながら救急医療がトータルで円滑にいくような運営を行っています。

一方で、本センターでは、卒後の初期研修・後期研修を通じて、全ての臨床医に必要な基本的な診療能力、総合診療を習得する環境を築き、患者さんを全人的・総合的に診るという意識を持った医師の育成に努めています。更に今後は、病院総合医や家庭医を育成するためのプログラムを検討して行く予定です。

医療福祉相談部の設置

医療福祉相談部が、平成26年5月1日付で中央診療部門に設置されました。職員は、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士の有資格者）で構成されています。

同部は、本院開院当初「ケースワーカー室」として医事課に所属していましたが、その後、「医療相談室」となりました。今日「医療福祉相談室」となりました。

平成18年7月1日の医療連携センター設置以降は、総合相談室の一部門として医療福祉相談室、肝疾患相談室、

がん相談支援室（専任）を担当し、様々な相談業務を行っています。

本院は、愛知県難病医療ネットワーク推進事業の拠点病院に指定されているため、難病患者さんの療養支援を行うための相談業務も行ってまいります。また、平成25年9月1日からは、認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症疾患の鑑別診断を目的とした受診・受療援助や介護サービスの利用や介護相談にも応じています。

どうぞお気軽にご相談ください。

総合物流センターの設置

病院では、医療材料や医薬品、滅菌器材など大量かつ様々な物品が使用されています。旧病院においては、これらの物品が、日々ばらばらに納入され、各部署独自在庫管理されていました。この体制を改善し、各物品を総合的に一元管理することを目的として、平成26年5月1日付で新病院開院に合わせて「総合物流センター」が新たに設置されました。

総合物流センターは、総合物流システムにより各物品を統括管理します。そのシステムは、新病院建設委員会

の下に設置された佐藤啓二委員長を中心とした物流関連専門委員会において、①患者さんにフォーカスした物流、②全ての物品に対して安全性を担保した物流、③効率性・有効性を追求した物流の三つの基本コンセプトに基づき、平成19年6月から構築が進められました。

今後、総合物流センターでは、病院情報システム（HIS）との連携を強化し、医療経費の削減等による本院マネジメントへの貢献も目指していきます。

病院経営企画室の設置

平成26年7月1日付で病院経営改善に必要な戦略的施策を企画し、実施する組織として病院経営企画室、並びに事務部門として病院経営企画課が設置されました。

今後は、病院経営改善に必要な戦略的施策を企画する病院経営戦略会議と企画した施策の実施・連絡調整を担う病院経営企画推進委員会を中心に、各部署へのラウンドや経営向上に繋がるキャンペーンなど、様々な推進活動を行っていく予定です。

また、新たに経営分析支援システムの導入も決定して

おり、人件費や材料費などを含めた病院経営分析など、これまでよりも多角的な経営指標を算出することが可能となります。それを基に経営課題を洗い出し、より一層踏み込んだ経営改善施策を企画していきます。

新病院が開院してから数か月が経過し、新病院の本格稼働に向けて様々な経営課題に直面しておりますが、法人本部の関係部署の協力を得ながら、病院経営の改善を図っていきます。

メディカルクリニック 名古屋市保健所による立入検査実施

平成26年5月29日（木）メディカルクリニックにおいて名古屋市保健所による立入検査が実施されました。

これまで名古屋市では、無床の診療所は透析診療所等一部を除き立入検査の対象ではありませんでしたが、平成25年度からは無床診療所を含めた全ての医療機関において立入検査が実施されることとなりました。

当日は、名古屋市中保健所の調査員2名によって、医療法関係規程などに基づく管理・運営状況、安全管理全般に関する実施計画・実施状況を中心とした書類審査と、

薬剤科や放射線区画、感染性廃棄物の保管状況を中心とした院内の視察が行われました。

審査・視察終了後、中保健所調査員から今回の立入検査の講評が行われ、「全体にわたり良好な運営状況であり、特に指摘すべき項目はない。」との評価を受け、今回の立入検査は終了しました。

今後は、概ね6年に一度立入検査が実施されることとなっています。

運動療育センターレポート 「元気の出る体操」DVD長久手版の制作

運動療育センターでは、現在、長久手市から依頼を受けて「元気の出る体操」DVD長久手版を制作しています。このDVDは、平成26年3月に同市で策定された「長久手市健康づくり計画（第2次）」に基づき、要介護や寝たきりになる危険が高い状態であるロコモティブ・シンδροーム（運動器症候群）の認知度の向上を図るとともに、市民の皆さまの健康づくりに寄与できるよう、本学が考案した「元気の出る体操」を基にして制作する市民向けの啓発用DVDとなります。

平成26年7月13日（日）・14日（月）には、たくさんの市民の皆さまにご協力頂き、本センターのトレーナーによる指導の下、市内各所において体操を実演しつつDVD映像の撮影を行いました。福祉の家、消防本部庁舎、はなみずき広場での屋外撮影では天気が危ぶまれましたが、幸い一度も雨に見舞われることなく、体操実演シーンほかを無事撮影することができました。

はなみずき広場での撮影では、広場を往来する方々が立ち止って見守る中でのシーンや通過するリニモの車窓



から乗客が手を振るシーンも見掛けられました。

現在、制作会社により完成に向けた編集作業が進められており、スポーツの秋が訪れるころには、できあがったDVDで「元気の出る体操」をマスターされた市民の皆さまの姿を目にする機会が増えることと思われます。

今回の撮影にご協力頂いた市民を始め、関係者の皆さまに心から感謝いたします。

日米共同研究システムの構築と提携に 米国国立衛生研究所（NIH）の代表が来日

平成26年4月6日（日）に米国国立衛生研究所（NIH）の国立眼研究所（NEI）のPaul Sieving所長とNEI国際プログラム戦略のGyan Prakash委員長が来日し、日米における今後の眼研究に関する連携ネットワークの構築に向けての戦略会議が東京で開催されました。

日本の代表として、本学の三宅養三理事長と国立感覚器センター分子細胞生物学研究部の岩田岳部長が参加し、有益な議論がなされ、正式に提携が締結されました。

会議では、眼研究について遺伝子研究、疫学研究、緑内障、網膜ジストロフィー等と同じプロトコールで大掛かりな共同研究が可能であるため、日本を一つの研究施設として捉え、日本でまとまったデータを作成し、NEIを始め、ヨーロッパやアジア各国のデータと共同で解析するネットワーク構想と各国間の学術交換の戦略が打ちたてられました。

このニュースは、NIHの広報版（nih record）に記事として大きく取り上げられ【写真】、今回の日本の研究



NIH広報誌「nih record」に掲載された写真
左からPrakash委員長、三宅理事長、Sieving所長、岩田部長

施設との提携について紹介されました。

また、三宅理事長は以前からNEIとの関係が深く、NEIを中心とした国際的研究ネットワーク構築に関する多くの功績があります。

外科学講座（血管外科） 石橋宏之教授 日本血管内治療学会 学会賞（平成26年度）を受賞

外科学講座（血管外科）の石橋宏之教授【写真】が、平成26年6月20日（金）・21日（土）に開催された「第20回日本血管内治療学会総会」において、「学会賞（平成26年度）」を受賞しました。

これは、日本血管内治療学会第19回総会で発表された論文のなかで、石橋教授が発表した「B型大動脈解離に対する胸部ステンドグラフトの経験」が、最も優秀な論文として評価されたものです。

表彰を受けた石橋教授から「今回の学会賞は、日本血管内治療学会が創設20周年を記念して新設した表彰で、栄えある第一回受賞者に選ばれたことを大変光栄に思っています。今後は、新病院に作って頂いた立派なハイブ



リッド手術室を大いに活用して、血管内治療を更に発展させ、同時に後進の指導に精進して行きたいと考えています。」と感想がありました。

内科学講座（循環器内科） 早稲田勝久講師 米国心血管インターベンション学会（SCAI） 学会賞を受賞

内科学講座（循環器内科）の早稲田勝久講師が、平成25年5月8日（水）から11日（土）に米国フロリダ州オーランドにおいて開催された「米国心血管インターベンション学会」において、「学会賞（Best of the Best Oral Abstracts: Third Place Winner）」を受賞しました。

これは、同学会で発表された一般演題の中で、早稲田講師が発表した「Impact of Hemodialysis on Angiographic and Clinical Outcomes After Xience V Everolimus-Eluting Stents（透析症例における薬剤溶出ステントの有効性と安全性の検討）」が、最も優れた発表の一つとして評価されたものです。

表彰を受けた早稲田講師から「米国においては、血液透析は、腎移植までの橋渡し医療のため、日本のような長期にわたる透析症例のデータはそれほど多くはありません。そのため、今回の私たちの発表は比較的少数例の



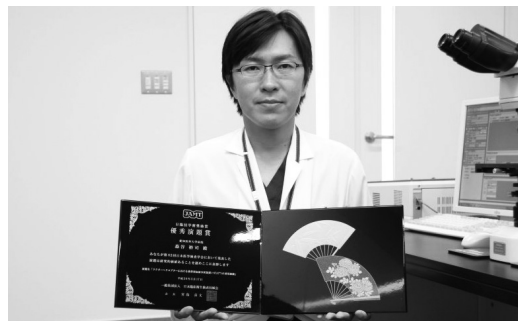
検討ではあったものも、興味を持って頂いたのではないかと思います。今後は、冠動脈形成術時に施行した血管内超音波画像などの解析を進め、慢性腎不全における冠動脈形成術後の予後に寄与している因子を検討し、臨床成績の改善に関与するものは無いか、更なる検討を進めていきたいと思っています。」と感想がありました。

中央臨床検査部 森谷裕司主任 日本医学検査学会 優秀演題賞受賞

本院中央臨床検査部の森谷裕司主任が、平成26年5月17日（土）・18日（日）に新潟県の朱鷺メッセで開催された「第63回日本医学検査学会」において、「日本医学検査学会優秀演題賞」を受賞しました。

これは、前回の第62回日本医学検査学会において、森谷主任の発表した演題「ドクターヘリコプターにおける携帯型血液分析装置i-STAT® 1の使用経験」が最も優れた口頭発表として評価されたものです。

表彰を受けた森谷主任から「この度、第62回日本医学検査学会において優秀演題賞を受賞いたしました。ご指導下さいました中央臨床検査部の後藤峰弘部長、岸孝彦技師長、救命救急科の中川隆教授、地域救急医療学寄附



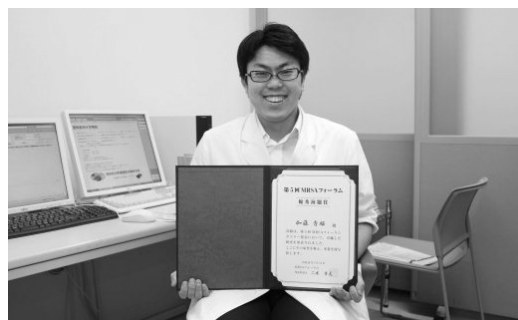
講座の井上保介教授（特任）に改めて御礼申し上げます。今回の受賞をこれからの研究活動の励みとして、益々精進していきたいと思っております。」と感想がありました。

薬剤部 加藤秀雄薬剤師 MRSAフォーラム 優秀演題賞受賞

薬剤部の加藤秀雄薬剤師【写真】が、平成26年7月12日（土）に開催された「第5回MRSAフォーラム」において、「優秀演題賞」を受賞しました。

これは、同学会のポスター発表「LZD・DAP治療」において、加藤薬剤師が発表した「透析および非透析患者におけるリネゾリド（LZD）による汎血球減少の発現頻度の比較」が高く評価されたものです。

表彰を受けた加藤薬剤師から「名誉ある賞を頂いたことを大変光栄に存じます。ご指導頂きました三嶋廣繁教授、山岸由佳准教授を始めとするICTメンバーの皆さまに深く感謝申し上げます。今後もなお一層、臨床・研究



ともに精進して参る所存でございます。」と感想がありました。

優良自動車運転表彰

毎年春に、模範的な運転を行い、交通安全の確保に貢献している優良自動車運転者に対して、愛知警察署長、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から表彰が行われています。

今年は、学際的痛みセンターの牛田享宏教授（医学部学生部次長）【写真】が平成26年5月29日（木）に表彰を受けました。

この表彰は、学生の安全運転指導に尽力し、自らも安全運転を心がけ、長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。



教育研究奨励金研究成果報告会開催

一般財団法人愛知医科大学愛恵会は、顕著な業績を挙げつつある若手研究者又は萌芽を生み出しつつある若手研究者に対して、その研究を発展させるため助成することを目的とした教育研究奨励金（研究助成）制度を実施しており、平成25年度の募集については医学部及び看護学部多くの希望者の中から、各学部において候補者が選考され、応募頂きました。

一般財団法人愛知医科大学愛恵会の審査委員会において審査した結果、医学部5名、看護学部1名に対し総額550万円を助成しました。

その助成を受けた研究者による「教育研究奨励金研究成果報告会」が、平成26年5月19日（月）に大学本館304講義室において行われました。

発表者からは、助成金により研究が計画的に推進でき、



成果も得られたという点で大変助けられ、また今回得た研究結果を更に発展させていきたいというご意見を頂きました。

一般財団法人愛知医科大学愛恵会は、若手研究者が本来の力を発揮できるように、今後も事業の継続に努めてまいります。

愛知医大サービス株式会社 新病院店舗サービス施設開店前夜祭開催

平成26年4月30日（水）午後5時から新病院2階ラウンジにおいて、愛知医大サービス株式会社の主催により、新病院内の売店を始めとする各店舗のオープンを祝すとともに従業員への激励を兼ねた「新病院店舗サービス施設開店前夜祭」が開催されました。

学校法人愛知医科大学の三宅養三理事長を主賓にお招きし、愛知医大サービス株式会社、愛知医科大学、一般財団法人愛知医科大学愛恵会、各店舗の関係者など総勢で約100名が出席しました。

最初に主催者を代表して、山岸越夫愛知医大サービス株式会社代表取締役からあいさつがありました。続いて、来賓を代表して、学校法人愛知医科大学の三宅理事長並びに店舗を代表して飯嶋庸夫名古屋ビルサービス株式会社代表取締役社長からのあいさつがあり、その後、各店長の紹介、代表店長による団結表明、学校法人愛知医科大学の理事の紹介等が行われました。

メイン行事のテープカットは、5月1日（木）の門出を祝し、三宅理事長、山岸代表取締役、店舗代表者5名の7名により厳かに行われました。

次いで、2階の外來レストラン（シトラス）に移動して、山本裕康メーキュー株式会社代表取締役社長のあいさつ及び乾杯の後、開店前夜祭レセプションが盛大に行われました。

会場は満席で溢れんばかりでしたが、終始和やかなうちに進行がなされ、積極的な情報交換が図られました。結びでは、各店舗の共同重点施策として、

- 安心・安全な食の提供
 - 親切・丁寧を基本としたお客さまサービスの徹底
- に新陣容をもって総力を結集し、最大限の努力を傾注していくことを約束し、併せて各店舗の今後益々の繁栄を願ってお開きとしました。



記念テープカット



あいさつされる山岸代表取締役

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



岩倉 賢也

学位授与番号 甲第435号

学位授与年月日 平成26年 5月22日

論文題目：「Simultaneous and sensitive analysis of fourth-generation antidepressants in human plasma by ultra-performance liquid chromatography-tandem mass spectrometry (UPLC-MS-MSを用いたヒト血漿中第四世代抗うつ薬の高感度一斉分析)」

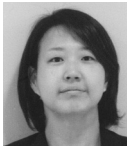


森 康浩

学位授与番号 乙第365号

学位授与年月日 平成26年 6月12日

論文題目：「Anger Is a Distinctive Feature of Epilepsy Patients with Depression (怒りは、てんかん患者に伴ううつの特徴である)」



大山由里子

学位授与番号 甲第436号

学位授与年月日 平成26年 6月12日

論文題目：「Effect of the ethanol extract of *Pleurotus eryngii* on bone metabolism in ovariectomized rats (エリノギ抽出物が閉経後骨粗鬆症モデルラットの骨代謝に及ぼす影響)」

研究助成等採択者

○公益財団法人武田科学振興財団

2014年度医学系研究奨励

●氏 名 増 渕 悟 (生理学講座・教授)

研究題目 時間治療を目指した癌組織低酸素領域の概日時計振動の解明

助成金額 2,000,000円

○公益財団法人武田科学振興財団

2014年度医学系研究奨励

●氏 名 林 寿来 (生理学講座・講師)

研究題目 血管新生におけるG蛋白活性調節因子の研究

助成金額 2,000,000円

○公益財団法人武田科学振興財団

2014年度医学系研究奨励

●氏 名 飯岡英和 (先端医学研究センター・助教)

研究題目 細胞極性制御因子Crb3が腫瘍の管腔形成と細胞移動を制御するメカニズムの解析

助成金額 2,000,000円

○公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金

平成26年度研究助成

●氏 名 高見昭良 (内科学講座(血液内科)・教授)

研究題目 同種造血細胞移植関連免疫調整遺伝子多型の機能解明

助成金額 1,000,000円

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介します。(敬称略)



ジョウ クワトウ
趙 華堂

国籍：中国

現職：山東省聊城市第二人民医院麻醉科医師

受入講座：麻醉科学講座

研究期間：H26. 7. 1 ~ H27. 6. 30 (1年)

研究課題：自律神経活動が術後疼痛におよぼす影響に関する研究

(ジョウさんからの一言): My name is Zhao HuaTang. I am an anesthetist and come from a hospital in eastern China's Shandong Province. I feel very honored as a foreign researcher of Aichi Medical University. The university not only has a long history but also very beautiful. Learning atmosphere is very strong here and I like here very much.

I want to do research of ultrasound -guided nerve block. This work have not carry out in our hospital. Fujiwara professor in this academic level is very high. I hope to follow him to learn it. Thank you again for Aichi Medical University gave me the chance to learn.



ジラワン クランジョホン
Jeerawan Klangjorhor

国籍：タイ

現職：チェンマイ大学医学部生化学講座研究協力員

受入講座：分子医科学研究所

研究期間：H26. 4. 29 ~ H26. 10. 28 (6か月)

研究課題：がんの進展におけるプロテオグリカンの役割

(ジラワンさんからの一言): My name is Jeerawan Klangjorhor. I am PhD student from Chiang Mai University, Thailand. My first impression of Aichi Medical University was that this university was beautiful and peaceful. The teachers and staffs in this university are very kind especially in Institute for Molecular Science of Medicine that I have collaboration. Moreover, this university has many novel and interesting research topics and high technology of laboratory instruments that should accomplish our research project. Finally, I'm greatly honored and happy to have collaborated with Aichi Medical University. Thank you very much for your collaboration.



シャミマ イスラム
Shamima Islam

国籍：バングラデシュ

現職：Nabisco Biscuit & Bread Factory LTD. 研究開発担当主任

受入講座：分子医科学研究所

研究期間：H26. 6. 14 ~ H27. 3. 31 (約9か月)

研究課題：細胞外マトリックスの構築と維持におけるプロテオグリカンの役割

(シャミマさんからの一言): I have joined as a Foreign Researcher at Aichi Medical University on last June. At the very first day of my joining I felt excited and a-bit nervous regarding my adaptation with the new environment and new country. After my first meeting with my Professor Hideto Watanabe at Institute of Molecular Science of Medicine, he took the time to show me around the laboratories. I felt myself welcomed and bit comfortable. I was extremely glad to find out tremendous laboratory facilities and highly skilled laboratory personnel which were beyond my expectation. I met the other international Foreign Researchers in my lab and found a nice friendly environment for research. Thus, I feel fortunate to have been here.

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第26回日本内分泌外科学会総会	平成26年5月22日（木）・23日（金）	今井 常夫
・第22回日本集中治療医学会東海北陸地方会	平成26年6月14日（土）	中川 隆
・第49回中部歯科麻酔研究会	平成26年7月12日（土）	風岡 宜暁

第26回日本内分泌外科学会総会

平成26年5月22日（木）、23日（金）名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、第26回日本内分泌外科学会総会が、本学医学部外科学講座（乳腺・内分泌外科）の今井常夫教授（特任）を会長として開催されました。

本学会は、甲状腺・副甲状腺・副腎・腎内分泌腫瘍などホルモン産生臓器の外科治療を中心とし、乳腺・前立腺などホルモン感受性腫瘍も含む幅広い領域を対象としています。参加医師の所属は、外科を中心に、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理、内科など学際的でありま

す。特別講演には、オーストリアウィーン大学のBruno

Niederle教授をお招きし、甲状腺髄様癌について講演して頂きました。また、米国コロラド大学のBryan Haugen教授に、本年改訂予定のアメリカ甲状腺学会の甲状腺腫瘍ガイドラインについて講演して頂きました。シンポジウム三つ、ワークショップ六つ、一般演題など200を超える演題発表と500人を超える参加者を得て、盛会裏に学会を終えることができました。

末筆となりましたが、本学会の開催に当たり、本学及び学会関係者の皆さまに多大なるご支援とご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第22回日本集中治療医学会東海北陸地方会

平成26年6月14日（土）大学本館たちばなホールにおいて、第22回日本集中治療医学会東海北陸地方会が本院救命救急科の中川隆教授を会長として開催されました。

昨今、医療現場では多職種連携の重要性が高まる中「専門性とチーム医療の融合」をテーマに、約500名の医師、看護師、臨床工学技士等が参加し活発な討論が展開されました。

福井医科大学名誉教授であり、本学心身自律神経バランス学研究室の後藤幸生先生に「Post-ICUリアニメーション：意識障害者への支援療法」のテーマで特別講演を頂き、講演では重症管理からその後続くシームレスな

支援の重要性を強調されました。また、ベッドサイドで役立つ11の実践的テーマに焦点を当てた教育講演には、多くの熱心な参加者から質問が飛び交っていました。

更に新病院見学ツアーを企画したところ、予想をはるかに超える反響で瞬く間に定員に達し、関心の強さを感じました。見学ツアー参加者からは、最新設備を誇る本院を目の当たりにして、羨ましいとお褒めの言葉を頂きました。

開催に当たり多大なるご協力・ご支援賜りました本学関係各位に深謝いたします。

第49回中部歯科麻酔研究会

平成26年7月12日（土）大学本館たちばなホールにおいて、第49回中部歯科麻酔研究会が、歯科口腔外科の風岡宜暁教授を会長として開催されました。

今回の研究会では、特別講演講師として看護学部（急性・重症患者看護学）の小松徹教授にご登壇頂き、「歯科・口腔外科領域超音波ガイド下手技の実践的応用」についてご講演を賜った後に、超音波ガイド下での神経ブロック・中心静脈穿刺に関するハンズオンセミナーを開催頂きました。

大型な台風8号の影響によって、一部ご参加頂けなかった先生もございましたが、中部地方の麻酔科医、歯科麻酔科医、口腔外科医を中心とした約100名にご参加頂き、多数ご発表頂いた一般演題においても活発な質疑応答が行われ、盛会裏に会を終了することができました。

末筆となりましたが、本研究会の開催に当たり関係者の皆さまより多大なるご支援とご協力を賜りましたこと心より御礼申し上げます。

平成26年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

平成26年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新学術領域研究 (研究領域提案型) (補助金)	武内恒成 医学部 生物学, 教授	1,500 (繰越)	0	コンドロイチン・ヘパラン硫酸合成酵素の発現制御－脊椎損傷再生・発生・神経機能－
〃	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科)・准教授(特任)	3,200 (継続)	960	疾患特異的細胞iPS細胞を用いたニューロマスキュラーパノロジーの解析
〃	佐藤元彦 医学部 生理学, 教授	4,000 (継続)	1,200	G蛋白活性調節因子による心臓興奮の制御とその破綻
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	3,600	1,080	コンドロイチン・ヘパラン硫酸合成酵素発現ネットワーク－神経再生・発生・機能相関－
〃	松永昌宏 医学部 衛生学, 講師	4,100	1,230	幸福感に関連する共感性の分子・神経基盤の解明
基盤研究(B) 一般 (補助金)	大石ふみ子 看護学部 在宅看護学, 教授	1,300 (継続)	390	頭頸部がんへの放射線治療による晩期開口障害を改善する看護介入プログラムの開発
基盤研究(B) 一般 (補助金・基金)	渡辺秀人 分子医科学研究所 教授	4,500 (継続)	1,350	病態における細胞外プロテオグリカンの役割：細胞挙動制御と組織構築機構
〃	菊地正悟 医学部 公衆衛生学, 教授	5,000	1,500	ヘリコバクター属感染と膵がん・胆道がんのリスク
基盤研究(B) 海外学術調査 (補助金・基金)	伊藤誠 医学部 感染・免疫学, 教授(特任)	3,500 (継続)	1,050	住民負担の少ない尿診断と媒介蚊調査による糸状虫症根絶の確認と再燃の早期発見
基盤研究(C) 一般(基金)	久保昭仁 医学部 内科学(呼吸器・アレルギー内科)・教授(特任)	(延長)	0	分子標的治療薬の新規薬力学評価法－非小細胞肺癌のがん性胸膜炎をモデルとして
〃	木全弘治 名誉教授	(延長)	0	炎症微小環境ニッチとしてのヒアルロン酸-SHAP複合体の形成機構の研究
〃	羽瀧脩躬 客員教授	(延長)	0	高硫酸化コンドロイチン硫酸／デルマタン硫酸の生理的・病理学的機能の解明
〃	西村直記 医学部 生理学, 講師	(延長)	0	長期宇宙滞在に向けた体系的なカウンターメジャーの確立
〃	高村祥子 医学部 感染・免疫学, 教授	(延長)	0	MD分子による免疫応答制御機構
〃	孫田信一 客員研究員	(延長)	0	非侵襲性出生前診断法の開発を目指した妊娠初期母体血中の胎児細胞分離技術の確立
〃	下村明子 看護学部 小児看護学, 教授	(延長)	0	発達障がいにある子どもと家族の生活臨床に関する研究
〃	三室マヤ 加齢医科学研究所 助	800 (継続)	240	多系統萎縮症のシヌクレイン病理－パーキンソン病との比較検討
〃	塚原玲子 客員研究員	400 (継続)	120	交感神経反応スイッチの基礎となる中枢過程

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	久留友紀子 医学部 外国語学, 准教授	900 (継続)	270	大学英語教育でのパラグラフ・ライティングを促進する評価 及び指導ツールの開発
〃	佐藤元彦 医学部 生理学, 教授	1,400 (継続)	420	虚血誘導性G蛋白活性調節因子を介する病態制御機構の解明
〃	神奈木玲児 客員教授	1,300 (継続)	390	低酸素誘導因子HIFが転写誘導する接着分子遺伝子の細胞遊 走能亢進における役割
〃	笠井謙次 医学部 病理学, 准教授	700 (継続)	210	ヘッジホッグシグナル伝達因子から見た細胞運動性と膵臓癌 進展の分子基盤
〃	鬼頭敏幸 医学部 小児科学, 准教授	1,700 (継続)	510	モノクローナル抗体をもちいたアスパラギナーゼ感受性腫瘍 の検索
〃	西山毅 医学部 公衆衛生学, 准教授(特任)	500 (継続)	150	拡張自閉症形質測定のための質問紙の日本語版開発および項 目反応理論に基づく比較研究
〃	有信哲哉 医学部 化学, 准教授	700 (継続)	210	モノリスカラムを用いたハイスループットLC/MSによる緊 急薬物同定システムの開発
〃	岡田尚志郎 医学部 薬理学, 教授	1,100 (継続)	330	視床下部室傍核のPPAR γ による副腎髄質からのカテコラミ ン分泌機構の解析
〃	伊藤清顕 医学部 内科学(消化器内科), 准教授	1,300 (継続)	390	2種類の次世代高速シーケンサーを用いたB型肝炎慢性化阻 止法の開発
〃	高見昭良 医学部 内科学(血液内科), 教授	1,200 (継続)	360	免疫調整遺伝子多型解析に基づくテラーメド型同種造血 幹細胞移植の確立
〃	藤井公人 医学部 乳腺・内分泌外科, 講師	300 (継続)	90	乳癌組織におけるSHAP-HA複合体による酸化ストレス防御 機構の解明
〃	吉田美和 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 講師	100 (継続)	30	磁気ナビゲーションによる画像融合技術を用いた乳腺超音波 装置の開発
〃	畠山登 医学部 周術期集中治療部, 教授(特任)	1,900 (継続)	570	敗血症病態による頻脈性不整脈におけるmicro-RNAの影響に ついての研究
〃	吉川和宏 医学部 高度研究機器部門, 教授(特任)	1,200 (継続)	360	腎細胞がんに対するがんワクチン・抗原特異的CTL・抗がん 剤を用いた併用療法の検討
〃	谷川徹 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授	1,300 (継続)	390	耳石における放射性物質の動態変化と濃縮予防への挑戦
〃	柿崎裕彦 医学部 眼科学, 教授(特任)	300 (継続)	90	涙嚢から総涙小管への逆流防止機構の解明
〃	坂本真理子 看護学部 地域看護学, 教授	700 (継続)	210	在日外国人母子への情報提供を促進するコミュニテイ・ブリ ッジ・ワーカーの試み
〃	岩瀬敏部 医学部 生理学, 教授(特任)	100 (継続)	30	宇宙デコンディショニングの対抗措置の戦略的開発と応用
〃	宮本淳 医学部 心理学, 准教授	300 (継続)	90	大学生のレポート作成における情報リテラシー：剽窃行為の 把握と対策
〃	齋藤敏之 客員研究員	900 (継続)	270	胸部脊髄神経後枝三枝の走行についての三次元的構造解析
〃	増渕悟 医学部 生理学, 教授	1,600 (継続)	480	時間治療を目指した腫瘍細胞概日時計の多様性の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究 (C) 一般 (基金)	シバスダランカルナン 医学部 生化学, 講師	1,300 (継続)	390	ゲノム編集を施したヒト気道上皮細胞株を基盤とするKRASシグナル経路の解析
〃	村上 秀 樹 医学部 病理学, 准教授	1,400 (継続)	420	癌遺伝子YAP/TAZのタンパク質相互作用ネットワーク解析と腫瘍形成における役割
〃	小出 直 樹 医学部 感染・免疫学, 准教授	1,000 (継続)	300	敗血症及び腸炎モデルにおけるCREB制御分子の関与
〃	横地 高 志 医学部 感染・免疫学, 教授	1,000 (継続)	300	細胞内DNAセンサー蛋白とエンドトキシン応答クロストーク
〃	小林 章 雄 医学部 衛生学, 教授	700 (継続)	210	減量後の体重のリバウンドに関与する生物学的および心理社会的要因とその機序
〃	柴田 英 治 医学部 衛生学, 教授(特任)	800 (継続)	240	石綿曝露指標としての肺内石綿小体及び肺内無機繊維の関連に関する検討
〃	山口 奈 緒 子 医学部 薬理学, 講師	1,000 (継続)	300	ストレス脆弱性の発生機構の解明-思春期のストレス経験が及ぼす影響-
〃	中出 幸 臣 医学部 消化器内科, 講師	1,100 (継続)	330	非アルコール性脂肪性肝炎進展におけるストレスおよび交感神経系の関与
〃	林 寿 来 医学部 生理学, 講師	1,200 (継続)	360	血管内皮細胞における細胞間シグナル伝達因子の発現制御機構
〃	西原 真 理 医学部 学際的痛みセンター, 准教授	700 (継続)	210	疼痛性障害における神経生理学的評価法の開発
〃	安藤 孝 人 医学部 乳腺・内分泌外科, 専修医	600 (継続)	180	磁気ナビゲーションを用いた分子イメージング標的病変検出支援型超音波診断装置の開発
〃	中野 正 吾 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 教授(特任)	600 (継続)	180	磁気ナビゲーションを用いた診断支援型乳腺超音波イメージングシステムの開発
〃	手塚 理 恵 医学部 乳腺・内分泌外科, 専修医	1,400 (継続)	420	細胞外マトリックス成分の生合成からみた乳癌・甲状腺癌転移浸潤機構の解明
〃	高阪 絢 子 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 助教	1,400 (継続)	420	甲状腺癌における細胞外マトリックス成分の発現動態を介した癌転移浸潤機構の解明
〃	新井 健 一 医学部 学際的痛みセンター, 講師	800 (継続)	240	パルス高周波神経ブロックのメカニズムと感覚と痛覚への影響解析
〃	田辺 圭 子 看護学部 母性看護学, 教授	800 (継続)	240	妊娠期の自律神経活動にみる胎内環境の継世代的関連
〃	大道 美 香 医学部 解剖学, 助教	1,800	540	運動器慢性痛の発症予防プログラム開発のための基盤構築
〃	梅澤 一 夫 医学部 分子標的医薬探索寄附講座, 教授	1,300	390	新規骨格を有するNF-kappa B阻害剤の探索と難治性がん治療への応用
〃	鈴木 進 医学部 腫瘍免疫寄附講座, 准教授	1,500	450	エフェクター制御性T細胞の統合的制御に基づく新たながん免疫治療法の確立
〃	稲熊 真 悟 医学部 病理学, 講師	1,500	450	新規シグナル経路GLI1-CXCR4による肉腫悪性形質制御メカニズムの解析
〃	小笠原 尚 高 医学部 内科学(消化器内科), 准教授	900	270	大腸癌における上皮細胞増殖因子および腫瘍壊死因子関連新規分子標的遺伝子の機能解析

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	天野哲也 医学部 内科学(循環器内科), 教授	1,400	420	生活習慣(病)の改善が冠動脈プラーク性状に与える影響
〃	山口悦郎 医学部 内科学(呼吸器・アレルギー内科), 教授	1,900	570	自己免疫性肺胞蛋白症の自己抗体エピトープ解析
〃	中山享之 医学部 輸血部, 講師	1,100	330	リンパ腫微小環境に存在する多能性幹細胞MUSEの機能解析
〃	奥村彰久 医学部 小児科学, 教授	1,200	360	次世代拡散MRI解析を用いた小児神経疾患の脳微細構造解析
〃	大須賀浩二 医学部 脳神経外科学, 教授(特任)	1,200	360	慢性硬膜下血腫被膜の自然退縮におけるapoptosisの役割
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	1,500	450	脊髄損傷修復に向けた再生阻害機構制御-コンドロイチン硫酸を制御する新素材開発-
〃	住友誠 医学部 泌尿器科学, 教授	1,600	480	去勢抵抗性前立腺癌のcholesterol代謝経路解明による個別化医療の確立
〃	三嶋廣繁 医学部 感染症科, 教授	1,500	450	マイクロビオータ解析に基づいた感染症新規治療法開発の試み
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学, 教授(特任)	1,100	330	頭頸部がん治療における正確かつ迅速な抗がん薬感受性診断法の確立
〃	白鳥さつき 看護学部 基礎看護学I, 教授	2,000	600	看護職者の職業被ばくに関する知識および防護行動実態調査と安全教育プログラムの開発
〃	下村明子 看護学部 小児看護学, 教授	1,700	510	発達障がいの子どもの睡眠改善プログラムを基盤とした生活臨床に関する研究
〃	佐々木裕子 看護学部 在宅看護学, 准教授	1,200	360	地域で活動する訪問看護ステーションが協働で取り組む災害対策の看護ケアモデルの開発
〃	内田育恵 医学部 耳鼻咽喉科学, 講師	1,600	480	聴覚コミュニケーション障害からみた高齢者・障害者・認知症ケアの在り方に関する検討
挑戦的萌芽研究 (基金)	高橋圭子 看護学部 成人看護学, 准教授	(延長)	0	2型糖尿病をもつ就労者の二次予防に着目したセルフモニタリングプログラムの開発
〃	白井裕子 看護学部 在宅看護学, 講師	(延長)	0	野宿生活者が主体的に健康に取り組むことを目指した看護支援
〃	木下浩之 医学部 麻酔科学, 教授(特任)	500 (継続)	150	長期記憶形成におけるアストロサイト代謝の役割と麻酔薬作用の分子科学的機序の解明
〃	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	1,200 (継続)	360	ノンコーディングRNAによるヒトES細胞の神経分化制御機構の解析
〃	小西裕之 医学部 生化学, 教授(特任)	1,400 (継続)	420	アデノ随伴ウイルスを利用した特異性の高いヒト細胞ゲノム編集技術の開発
若手研究(B) (基金)	大道裕介 医学部 解剖学, 助教	1,000 (継続)	300	運動器不活動後の広範囲慢性痛に対する新たな理学療法戦略構築のための基礎研究
〃	松永昌宏 医学部 衛生学, 講師	1,000 (継続)	300	幸福感を高める前向き思考が心身の健康に及ぼす効果の検討

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究(B) (基金)	柳下武士 皮膚科, 助教	500 (継続)	150	多汗症に対する外用治療薬の効果と作用機序の解明
〃	武山正行 医学部, 講師	1,400 (継続)	420	レーザー治療合併症の黄斑浮腫を予防する薬剤の選定
〃	田井中貴久 医学部, 准教授(特任)	1,200 (継続)	360	DNAマイクロアレイによる遺伝子解析を用いた胆道閉鎖症予後予測の研究
〃	飯岡英和 先端医学研究センター 助教	1,600	480	Crb3aの腫瘍組織における発現と機能の解析
奨励研究 (補助金)	萩原真生 薬剤部, 薬剤師	500	0	遺伝子解析を応用した多剤耐性緑膿菌に対する抗菌薬の至適投与方法の探索
〃	高四強 輸血部, 臨床検査技師	600	0	トロンボモジュリン遺伝子導入により安全性を高めた間葉系幹細胞の作成

- ・研究種目及び課題番号順にて記載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付決定通知」及び「交付申請書」を基に作成
- ・平成26年6月までの転入転出を含む
- ・基金については、今年度請求額を記載

平成26年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

平成26年度厚生労働科学研究費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位：千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
がん対策推進総合研究事業(革新的がん医療実用化研究事業)	上田龍三 医学部 腫瘍免疫寄附講座, 教授	199,440	59,832	固形がんに対する抗CCR4抗体療法第I a/ I b相医師主導治験
慢性の痛み対策研究事業(慢性の痛み政策研究事業)	牛田享宏 医学部 学際的痛みセンター, 教授	34,200	10,000	慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為の医療システム構築に関する研究

- ・研究代表者五十音順にて記載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「国庫補助の交付基準額等について」及び「交付申請書」を基に作成



献血ご協力ありがとうございました

夏の団体献血

平成26年7月1日（火）医心館1階ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は、平成27年2月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願いします。

・ 献血受付数	・ 31名
・ 献血できた方	・ 22名 (400ml・21名)
・ 献血できなかった方	・ 9名

著書等ご寄贈のお願い

医学情報センター（図書館）では、本学教職員及び卒業生の方々が執筆された図書、AV資料等を積極的に収集し、広く利用者の皆さまに提供しております。

著書等を発行された場合には、是非図書館にご寄贈くださるようお願いいたします。

※ご寄贈頂ける場合には、貸出用・保存用として2冊頂けると幸いです。

【お問い合わせ先】

医学情報センター(図書館) 図書担当
電話：(0561) 61-1836 [ダイヤルイン]
E-mail：library@aichi-med-u.ac.jp

エビデンスに基づいた医療を遂行できる医師の育成

生化学講座 教授 細川 好孝

医学教育のグローバルスタンダードを目指して

今後、本学も国際認証を受けていくことになりますが、医学教育の国際基準を見据えながら、低学年では医師としてのコミュニケーション能力やプロフェッショナルリズムの養成を図り、高学年では臨床実習を更に充実させる必要があると考えています。基礎科学・基礎医学と臨床医学との連携や一貫性のある医学教育プログラムを構築し、OSCEを始めとしたパフォーマンス評価を重視した教育を目指すべきです。また、医学生として卒業時の学習目標（アウトカム）を明確にしていく必要があります。

生化学の教育としては、酵素学、代謝学、分子生物学の基本的な事項をしっかりと押さえながら、基礎科学である生物学と協力して、一貫性のある生命科学としての統合したカリキュラムを構築していきたいと考えています。更に、代謝学・遺伝学における基本的知識の習得をさせることは当然ですが、できる限り自ら考えることを学び、その結果として病態の分子基盤を常に意識し、エビデンスに基づいた医療を遂行できる医師の育成のための一助になるよう努めていきたいと考えています。

世界に発信する医学研究

生化学講座は、現在スタッフ5名、助手1名、大学院生3名から構成されています。小西裕之教授（特任）は、胸部外科医でしたが、肺癌の基礎研究に転身した俊英です。彼は遺伝子ターゲティング法の技術を駆使して、

変異KRAS遺伝子と変異BRCA1遺伝子の機能解析を行い、抗癌剤の候補となる化合物の探索を行っています。太田明伸講師は、ヒ素曝露による動脈硬化症や高血圧症発症の分子基盤を解明し、また、その抗癌作用の一端を明らかにしました。彼は大変教育熱心で教育・研究・運営にわたり講座の屋台骨を支えてくれています。カルナン講師はスリランカ出身で、在日20年になります。マイクロアレイ解析やCGH解析などゲノム解析のスペシャリストで、従来は悪性リンパ腫や白血病のゲノム研究に携わっていました。現在は小西教授（特任）の研究のサポートと同時に、神経線維腫症I型のオリゴアレイ解析により腫瘍関連遺伝子を探索しています。

このように、本講座の研究は、癌細胞を対象に細胞の増殖・分化・細胞死などの細胞運命決定の調節機構の分子的基盤を明らかにし、得られた知見をふまえて、臨床医学へと還元することを目指しています。

講座からの一言

生化学講座は、構成員9名と小規模な教室ですが、講座内の連携・コミュニケーションは非常にスムーズで、全員が働きやすい環境になっていることは大いに自慢できます。是非、学生諸君も気軽に遊びに来てください。また、臨床の先生方にはゲノム解析ではお役にたてると思いますので、気軽に相談ください。



規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

病院規程の一部改正等

病院における土曜日外来休診移行に伴う職員勤務体制の週休2日制への変更及び診療科、中央診療部等の病院組織整備等に関連して、次の関係規則が整備されました。

施行日は平成26年5月1日（病院経営企画室関係は平成26年7月1日）

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学就業規則
- ・学校法人愛知医科大学給与規程
- ・学校法人愛知医科大学事務組織規程
- ・愛知医科大学病院規程
- ・愛知医科大学病院医療連携センター規程
- ・事務組織の所掌事務細目について
- ・総務・企画室事務分掌について
- ・施設・建設室及び管財・契約室事務分掌について
- ・病院事務部事務分掌について
- ・医事管理部事務分掌について
- ・学校法人愛知医科大学育児休業等に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学給与規程施行細則
- ・愛知医科大学医学部附属総合医学研究機構核医学実験部門利用内規

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院プライマリケアセンター規程
- ・愛知医科大学病院プライマリケアセンター運営委員会規程
- ・愛知医科大学病院総合物流センター規程
- ・愛知医科大学病院総合物流委員会規程
- ・愛知医科大学病院医療福祉相談部規程
- ・愛知医科大学病院医療福祉相談部運営委員会規程
- ・愛知医科大学病院病院経営企画室設置要綱

新病院建設本部設置要綱等の廃止

新病院の開院に伴い、新病院建設事業に関連して制定されていた次の関係規則が廃止されました。

施行日は平成26年5月26日

- ・学校法人愛知医科大学新病院建設本部設置要綱
- ・学校法人愛知医科大学新病院建設対策会議規程
- ・学校法人愛知医科大学新病院建設設計プロポーザル審査委員会設置要綱
- ・学校法人愛知医科大学新病院運用検討事務室設置要綱

給与規程の一部改正

学校法人愛知医科大学給与規程の一部が改正され、夏季及び年末の賞与支給率が前年度と同様の割合となるよう所要の改正が行われました。

施行日は平成26年5月26日

学長業務補佐規程の制定

愛知医科大学学長業務補佐規程が制定され、学長の方針に基づき、学外の情報を収集することによって、学長を補佐する制度が整備されました。

施行日は平成26年6月1日

医学部教員選考規程の一部改正

愛知医科大学医学部教員選考規程の一部が改正され、教授候補者選考委員会の委員構成及び選考方法等が整理されました。

施行日は平成26年6月26日

「臨床研究に関する補償方針」の一部改正

平成26年7月10日付けで「臨床研究に関する補償方針」（医学部長裁定）の一部が改正され、医学部において、ヒト幹細胞を用いる臨床研究を実施する場合の補償措置等が整備されました。

「特別講義招へい講師に係る経費について」の裁定

平成26年5月2日付けで「特別講義招へい講師に係る経費について」が理事長裁定され、大学院医学研究科及び医学部において特別講義に招へいする講師に支給する経費基準が整備されました。

病院虐待防止委員会規程の制定

愛知医科大学病院虐待防止委員会規程が制定され、被虐待者の早期発見、治療及び虐待再発予防に関する事項を審議するため、病院虐待防止委員会が設置されました。

施行日は平成26年5月1日

電気保安規程の一部改正

学校法人愛知医科大学電気保安規程の一部が改正され、中央棟の完成及び施設管理業務の委託化に伴い、電気保安体制及び需要設備が現状に合わせて整理されました。

施行日は平成26年6月5日

エネルギーの使用の合理化に関する規程等の一部改正

学校法人愛知医科大学エネルギーの使用の合理化に関する規程及び学校法人愛知医科大学省エネルギー推進委員会規程の一部が改正され、中央棟の完成及びテナント契約先の変更に伴い、関連組織等が現状に合わせて整理されました。

施行日は平成26年6月27日